



# 幼保小架け橋だより



令和8年6月発行 Vol.4  
三木市教育委員会  
教育・保育課  
小中一貫教育推進室

## スタート期についての参観



## 第5回検討委員会

令和8年5月18日(月)  
15時~16時30分

令和7年度第4回検討委員会の協議では、「1年生が安心して学校生活をスタートするために」をテーマとして、「どんなところに不安を感じるのか」「安心してスタートするために、どのような環境構成や教師の支援が必要か」について、グループ協議を深めました。



令和8年度がスタートし、新たに小学校や特別支援学校の生活をスタートした子どもたち!!  
そんな1年生の姿を、園所の先生方が参観し、提出いただいた「参観シート」をもとに各小学校での取り組み実践から、安心・主体性につながるキーワードを整理しました。

## スタート期の「参観」から・・・ 安心・主体性につながるキーワード

### 環境をつなぐ!!

- ・園で親しんできた遊びや自分で選んで遊べるコーナー
- ・別室や教室内にフリースペースを確保する
- ・1年生のための外遊びの時間の確保(学校全体で取り組む)

### ポイント

ホッとできる!  
好きなことができる!  
園に似た、安心できる空間



### ポイント

「安心」「やってみよう!」  
につながる表示

- ・持ち物の置き場、準備物や準備の仕方などのわかりやすい表示(イラスト・写真と文字で)
- ・生活や学習のルールの表示(文字が読めなくてもわかる色分けや表示)
- ・トイレや教室の環境を明るくする表示。キャラクターの掲示



### ポイント

自分で考え、自分で選ぶ「やりたい!」につながる表示

- ・見通しをもてるような表示(今日の予定、本時の内容)
- ・柔軟なスケジュール(「〇〇タイム」)
- ・子どもと翌日のスケジュールを決める
- ・子どもの興味・関心にそった時間設定



## 人とつなぐ！！

- ・机の配置をグループにしたり、対面にしたりする
- ・グループ活動（グループで相談・ペアで活動）
- ・いろいろな友達と出会う活動（自己紹介、集団遊び）
- ・わからない時や困った時に、SOS が出せる関係に

### ポイント👉

友だちや先生と  
つながる！  
「学校って楽しい」



## 経験や学びをつなぐ！！

- ・馴染みのある手遊びやリズム打ち、知っている歌やダンスを取り入れる
- ・座学だけでなく、体を使って表現したり、動きながら学んだりする
- ・円座になって話し合う、床で描く
- ・ゲームやクイズ形式を取り入れた学習
- ・園での経験や知っていることを生かす、引き出す

### ポイント👉

園での遊びや生活の  
中での経験を、  
少しずつ教科学習へ  
「学ぶって面白い」



## 安心・主体性を支え、引き出すための教師の支援や言葉かけ

- わかりやすい言葉、端的に短く
- 認めのことばかけや OK サイン
- 焦らせずゆっくり時間をかけて
- 園での経験や意欲を引き出す「園ではどうしていた？」「やってみたい人」
- 子どもの発言を受け止める
- 気持ちに寄り添う言葉、その子を理解した認め言葉「何か困っている？」「リベンジしてみる？」「また聞かせてね」
- 失敗や間違いを次の学びに生かすための言葉「小学校は、いっぱい間違えていいんだよ」「間違っても大丈夫」「そんな時もあるよね」

### 意見交流

「架け橋期」を支えるカリキュラムの核となる視点を、各学校の実践事例から「スタート期に大切にしたい視点」5つに整理し、協議を行いました。

### スタート期に大切にしたい視点

- 視点1 子どもが安心して学校生活を始めるために必要なことは何か
- 視点2 園所での経験を小学校でどう生かすか
  - ・「育ってきたこと」をどう共有するか
- 視点3 主体性をどう育てるか
  - ・子どもが自分で考え、選び、試す場面をどうつくるか
  - ・一斉指導と主体性を育む指導のバランスをどう取るか
- 視点4 遊びと学びをどうつなぐか
  - ・遊びの中にある学びをどう見取り、生活科、国語、算数などの学習につなげるか
- 視点5 学校全体でどう支えるか

三木市が重点をおく「主体性」「協働性」「創造力」を育むために、園所での「遊びを通した学び」が小学校での「教科を通した学び」へ、どのようにつながるのかを、より具体的に実践から「見える化」していくことが、今後の課題であると考えます。



### 鈴木委員長より助言

- 子どもたちが安心して過ごせるよう、スタート期はゆったりした時間設定を心がける。また、絵本を自席以外で読める場や絵画活動を床で行うなど、子どもが自分に合った場所を選べる環境作りが安心感につながる。
- 授業では、「動く→座る→動く」というリズムを意識し、15分程度で活動を切り替えながら進めることで、集中しやすくなる。椅子に座ることが優先ではなく、まずは話し合い活動を円座や床に集まって行い、集中して話し合うことを大事にするといよい。
- 誰かに手伝ってもらってでも、子どもたちに「できた!」を感じられるようにしたい。そのためには、教科書通りの学習だけではなく、子どもたちが興味関心をもって取り組める活動を大切に、「やりたい」を引き出すことが重要である。
- ひらがな学習で、「どの字から学ぶか」を子どもたち自身で決めるなど、自分たちで目標に向かう経験を大切にする。